

単元名「私たちの食生活と海洋」(10時間)

1 単元設定の理由

海に面していない内陸部に暮らす児童にとって海の存在は日常的ではない。児童の中には潮の満ち引きを知らない児童も存在し、生活とはかけ離れた存在である。しかし、子供たちは身近な所では食生活を通して、魚食文化の中で生活し、日常的に海の恩恵を受けた生活を送っていることもまた事実である。

そこで、海と私たち関係に気づき、海を身近に感じることで、海と自分たちの関係を再確認することを目的として、身近な食材である給食に出てくる海産物に焦点を当て、海との関係を考えていくこととする。

2 単元目標

給食や食卓に上る魚類を中心とした食材に着目し、私たちの生活を豊かにしている海洋の役割に迫る。給食の食材としてよく用いられている海産物の中から鮭を取り上げ、鮭の生活史に迫りながら、私たちの暮らしを支える海洋の恩恵を考える。

(関連する学習：5年社会科「水産業」、5年家庭科「はじめての調理」、総合的な学習の時間「食育」)

3 単元の評価基準

鮭の一生と海との関係を考え、海洋の役割を考えることができる。

私たちの暮らしと海洋が密接に結びついていることを理解する。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1 2	<ul style="list-style-type: none"> 給食の食材を調べる。 栄養士、給食室に取材する。 給食に出ている魚介類をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 魚食のメニューの時を選ぶ。魚食給食想起させながら関心づけを行う。
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 鮭について調べる。 鮭と食文化 鮭の生態 学習テーマを立てる 「鮭はなぜ海を目指すのだろうか」 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋との関連で考えるように意識させる。 ジグソーグループを結成する。
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 鮭遡上調査を行う。 生物調査で見つけた生き物や神田川に生息している生物の名前や生態を調べる。 生き物と海洋の関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 実体験を通じて考える土壌とする。 鮭の稚魚飼育に並行して取り組む。 生活圏に最も近く遡上実績のある川(利根川)を選択する。
8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> テーマに迫る 「鮭はなぜ海を目指すのだろうか」 ジグソー学習 エキスパート活動 ジグソー活動 (エキスパート活動の報告 知の統合) グループの 学習報告会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ジグソー法は3テーマに分割することが多いが、対比を明確にし、焦点化させることで海の恩恵に迫ることを目的として川と海の2テーマで行う。
外部連携 / 教材等 NPO法人 アイ環境研究所「鮭の稚魚飼育プロジェクト」		